

# 研究だより

No. 6  
平成29年7月6日

## 道徳参観日のようす

6月21日(水)は道徳参観日でした。来年度から「特別の教科」になるにあたり、今年度は授業研究などを通して「議論する道徳」への挑戦も推進担当としてお伝えしていました。

どのクラスも児童の実態に合わせて、言語活動を意識したり、「自分だったら～」という視点で考えさせたりといった「特別の教科」化を意識した道徳の授業に取り組んでおられました。

県の道徳推進協議会で教育委員会からのお話で、印象に残った言葉を紹介します。

「来年度から実践するためには、今年度から実践していかないといけない。」

「学びの変革」もそうですが、来年度は4月から全教職員で足並みをそろえて実践していくためには、「今年度実践して、自分のものにしていく」ことが大切です。

参観日の先生方の実践を見て、来年度はきっと4月からロケットスタートが切れるのではないかと嬉しくなりました。

## 授業のようす



役割演技を取り入れることで、登場人物の気持ちになって考えることができました。



実際に起こり得るテーマを扱うことで、「自分だったら～」と考えることができました。



道徳を通して、自分のこれまでの生活を振り返ることができました。



「なぜルールを守らないといけないのか。」というテーマで議論できました。



対立型の議論ができました。発表していく中で、価値に迫る発言がたくさん見られました。



日本の伝統のよさについて、実体験を交えながら考えることができました。

## ディベートのようす

5・6年生のディベートを参観しました。「学校に制服は必要である」というテーマに対して、肯定派と否定派に分かれて討論を行いました。

自分の主張を筋道立てて根拠を明確にして話したり、質問したりすることは他教科のみならず、生きていく上で必要な力です。学活等でぜひ行ってほしい取組です。

